

「小樽市健康増進・自殺対策計画」に対して提出された意見等の概要及び市の考え方等

1 意見等の提出者数	2人
2 意見等の件数	10件
3 上記2のうち計画等の案を修正した件数	2件
4 意見等の概要及び市の考え方	

No.	意見等の概要	市の考え方等
1	56ページの第7章評価計画・推進体制の1評価計画の本文で「また、庁内関係課、や関係団体の意見を聞きながら」とあるが「また、庁内関係課や関係団体の意見を聞きながら」であり、読点が必要である。	56ページの第7章評価計画・推進体制の1評価計画の本文については、いただいた御意見を踏まえ、案の「また、庁内関係課、や関係団体の意見を聞きながら」を「また、庁内関係課や関係団体の意見を聞きながら」に修正いたします。
2	計画名の「小樽市健康増進・自殺対策計画」は、分かりやすいが、縦割りの、あまり一体化していないように感じられた。変更が可能なら、「心と体の健康増進計画」のような一体感のある名前にした方が良いと思う。	本計画は、健康増進法に基づく「市町村健康増進計画」と、自殺対策基本法に基づく「市町村自殺対策計画」等を合わせたものとして策定するものであるため、案のとおりといたします。
3	本文中で「こころ」とひらがな表記されているが、「心」にしない理由があるのか。あれば、ぜひ本文中で触れてほしい。	本文中の「こころ」表記は、国が制定する健康日本21(第3次)のひらがな表記に準じております。本計画が国の指針に基づいていることは、本文中でも触れているため、追加記載等の修正は行わず、案のとおりといたします。
4	4ページのライフコースアプローチの日本語がおかしい気がした。原因を支援するのか。原因の〇〇を支援すると言うのならわかるが。	ライフコースアプローチの説明をより理解しやすい表記にすることが適切と考えましたので、案の「成人における疾病の原因を胎児期や幼少期及びその後の人生をどのような環境で過ごし、どのような軌跡をたどってきたのかなどの、人の一生を通して継続した支援をすることです。」から、「胎児期から高齢期に至るまでの人の生涯を経時的に捉えた健康づくりのことです。」に修正いたします。
5	第4章の37の指標について、社会環境の質の向上の(3)に、良好な家族関係の構築があった方が良くと思う。育児放棄やDVがある家で育った子どもが、社会とうまく付き合えるとは思えない。第5章の2の領域3も同様。そして、第6章の領域3の(1)で、目標・指標に育児放棄・虐待、DVの発生件数を加えてほしい。	健康寿命の延伸のためには、個人の行動と健康状態の改善に加えて、個人を取り巻く社会環境の質の向上を図ることが重要であり、社会環境の質の向上には、行政だけではなく多様な主体との連携も進めていくことが必要です。いただいた御意見のように、個人の家庭環境も大切な視点ではありますが、本計画は国の指針に基づき策定するものであることから、案のとおりといたします。なお、本市では、児童虐待の防止については「子ども・子育て支援事業計画」において、DVの防止については「男女共同参画基本計画」において、それぞれの対策をお示ししています。
6	第5章の1で女性のホルモンバランスについて触れているが、男性については考えなくて良いのか。更年期障害でひきこもる男性もいるように思うし、男女平等の観点からも、男性についても何かしら取り上げた方が良くと思う。特に、「子ども、高齢者、女性についての健康づくりに取り組みます。」と明確に男性を排除している文章は、男性に対する差別ではないか。	健康日本21(第3次)を推進する上では、子ども、高齢者、女性に関する目標を設定すること、今回目標を設定していない男性等について、健康づくりの取組の推進も重要である旨、示されております。いただいた御意見のように、男性についての健康づくりの取組の視点も重要ですが、本市における男性特有の健康課題等について、現在の状況を十分に把握できていませんので、今後の研究課題とさせていただきます。

7	<p>第6章の領域1の(1)で、目標・指標に魚介類摂取量の増加も含めた方が良い。魚介類に含まれる脂質(DHA・EPA)の動脈硬化予防効果は科学的に強く示唆されており、脳機能の改善も期待できる可能性がある。脂質だけでなく、魚介類に含まれる糖質・たんぱく質にも特有な効果が期待されているため、目標に加えるべきである。</p>	<p>魚介類摂取量については、国における目標量が示されていないことや、本市における魚介類摂取量の現状値(63.6g/日)が国(68.5g/日)と同程度の値であることから、目標としては設定しておりません。しかし、御意見のとおり魚介類は良質な脂質・たんぱく質やビタミン類を多く含み、食事の中に上手くとり入れることが望ましいため、多様な食品を組み合わせた「バランスのよい食事」について、健康教育や各種事業において啓発してまいります。</p>
8	<p>第6章の領域1の(6)の口腔機能の低下防止への関心の増加で、指標に定期的な歯科検診を受診している人の数があつた方が、低下防止にとって直接的で良いように思いました。</p>	<p>口腔機能の低下防止には、定期的な歯科受診が効果的ですが、まずはオーラルフレイルについて知っていただくことと、50歳以上になってもよく噛んで食べることができる人を増やしていくことが重要であると考えておりますので、案のとおりいたします。</p>
9	<p>第7章の1で市民アンケートを中間評価と最終評価に設定しているが、毎年度の評価にも加えた方が良い。アンケートを通して市民が健康に対して気づきを得る機会にもなる。</p>	<p>市民アンケートを毎年度実施するには、事前準備を含め膨大な作業が発生するとともに、費用も必要になることから、中間評価及び最終評価の際に実施することとしておりますので、案のとおりいたします。</p>
10	<p>第6章でかなりの項目にアンケートが見られることから、本計画の遂行に対し重要なツールであると考えられるので、アンケートを実施する市民の数の増加や回答率・回収率の増加もどこかで検討課題に設定した方が良い。</p>	<p>本計画は、市民の健康増進・自殺対策計画について目標・指標を設定しております。中間評価や最終評価のために実施するアンケートの回収率、回答率については、高い方が望ましいと考えておりますので、その方法について、さらに検討してまいります。</p>

* 同じ内容の意見が複数ある場合は、「意見等の概要」の最後に件数を記載してください。

* 計画等の案を修正した場合は、「市の考え方等」の欄に修正箇所を併せて記載してください。